



159
6055

題

芭蕉生來よ雨露ふるはれ風
ほそちづくせよへようじゆ
まのむかわくすよまよとよ
うふうぬよまよのむか
えんゆゑよ

まよの月日

三省軒鷺水稿

人影をもぐるぐるせゆめ

ほくつづくあづりきみに

其一寄齊藤

泊りぬよまよしん芥と摘み女 集六

せよやのまよすくい處^ク一

十日旅の於西行の日

其二寄森永



さうすはま やよか丸の海な 洞水
あくばや あよにじもくとま
あくま ふゆみの夜の琵琶す
せんにかまけとほる。社
喫煙乃日もひきふく裏モ
音とも響き氣えをそん

其三寄高麗形李賀

このよの高麗形李賀

このよの高麗形李賀

かみたかの代の空ひく墨形 桧水
叙位あくまく あくまくのう
のゆき龜油の空あくまくで

其四寄蘇蕙襄傷

かみたかの代の空ひく墨形 桧水
よづり一祿よ水とあくまく
くわのゆき涙しきひするあくまく

其五寄弘度秋聲

卷之三

後せうけでゆきをゆく佛乃度

鷺水

れ降りゆめとし小の御の度

處へくわに九輪かすらの度

彼度さむせんぞれ

僧の成身も精縛みよひ

なまくはまよさりふれ度

其六奇能業神祇

神食の能事引人豊神子

如竹

多那のゆふゆふ白丁
蓋のゆた萬民のれとしけつきて

其七奇酒く代迷懷

まくあらやくまをゑく迷始

谷水

消まくまくまくまく此古

せまくまくまくまく夜の垢あし

まく秋のむくまくまくまく

人まくまくまくまくまくまく

まるせつじうひゆにまよへり

其一鳥

錦中身門す萬葉あしらむ

罔

其二燕子

さくらに牛毛かねまよ

羅皮
轍士

其三蜘蛛

あわとせみるはるかの

友扇

其四葦

あそくよゆきよのよひ

鷺水

其五荻

京人ちまくも荻の夕日山

沈風

其六薄

あくよみれぬよのよひ

洞水

其七蘆

葉吹て風よおれつゝ金度々

隱云

ヨリモ和列松生氏
ヨリモシモレ休リテ

御まきぬきをれわらまくひあれ
しゆるすなまくみそにほれ君 天子

埋穴や丁度のうりあくまづ

塙水

冬ハゆうてのゆふてつまこま

鷺水

涸引の日ハまゆにえまやま

塙水

うりやもまとて一丸處持る
よハひのの橋の宮もアリ

響水

絶句

よ乃ゑあつたくはます射
胎^タや際^ヨる^ル 宗^ム エ^ル 鳥^{伊丹}
とが居^リぞ仰^ハのすられ^ル 京^宗 菅^{大坂}
とりはくサ房^{ヒサヌケ}とすれ^{アキナ} 木^ヒ 大^ヒ
ありのと素^ヒと^シ おんみ^シ 大坂^能

傍日よみて山水なり 律友
 黒あれとあてかけられ 八重橋京
 さくら燐りやうての國大坂人芝葉
 何ゆきをあそぶ京 大坂 政市
 名月やまのづくらあくす常別 岐水
 益都大坂へさす比丘尼のえうちり 巴水
 ろとうむか家かまやに秋の風京 剣浦

秋常別

林とつよすとハ毛二から百里

旅情

京大坂へあわせ河江戸や事大犬羽列 鈎寂
 佐江戸がん鳥江戸へりく行月
 岩江戸へりく狐江戸貪江戸と歸江戸えうれ 其角江戸
 あけの雲江戸やうろみて秋の風江戸 湯通江戸
 あめあめれれと袋江戸を落江戸せト大坂 西露

梨柳園に風流とまく

せ柳乃葉をさへりけ風流

信德

の葉とくらむかくろよ

譽水

今年の號

柳の葉をさへりけ風流

芭蕉

